

ある ^{かん} 歩いて ^と 感じて ^と かき留めよう！

うら ^と 裏にある問いをきっかけに ^{おも} 思いついたことがあったらかき留めてみよう！

家や学校で読もう☆

作品は、こんな気持ちで見よう！

- ^{ごかん} ^{かん} 五感で感じてみよう
^{おと} 音はきこえる？どんな音？においはあるかな？
^{くつき} ^{ただよ} ^{そうぞう} どんな空気が漂っているか想像してみよう！
- ^{ちようこく} 絵の中の人や彫刻はどんな気持ち？
 どんな話をしてるかな？
^{とうじようじんぶつ} 登場人物になりきってみよう！
 作品と同じポーズをとってみよう！
- 自分ならこんなタイトルをつけるかな！

美術館のマナー

-  作品にはさわらない
-  大声を出さない
-  走ったり、ふざけたりしない
-  ^{てんじしつ} ^{えんぴつ} 展示室では鉛筆のみ使えます。
消しゴムは使えません。



^{ごご} ^ひ 午後の日 >
1981年

母・かの子

父・一平



^{おかもとたろう} 岡本太郎は、1911年2月26日に
^{まんが} ^{いっぺい} ^{かじん} ^{しょうせつか} 漫画家の岡本一平と、歌人であり小説家の岡本かの子の
^{ちようなん} ^{たかつ} ^{ふたご} 長男として、現在の川崎市高津区二子に生まれました。

19歳～29歳までフランスのパリに留学していた時、ピカソの作品に出会い、涙を流すほど感動したそうです。31歳～35歳の間は、戦争で兵隊として中国に渡りました。戦後、目まぐるしく日本が発達していく中、新しい芸術をつくる運動をはじめます。59歳の時、大阪で開催された万国博覧会で《太陽の塔》を発表しました。84歳で亡くなるまで、精力的に作品をつくりました。

出かけてみよう☆

こんなところにも、太郎作品があるよ！



^{ほこ} < 誇り >
1962年

^{ぶんがくひ} 岡本かの子文学碑
川崎市高津区・二子神社内



^{あす} ^{しんわ} < 明日の神話 >
1968年

^{とうきやうとしぶや} 東京都渋谷区・渋谷駅



^{わか} ^{とけいだい} < 若い時計台 >
1966年

^{ちゆうおうく} 東京都中央区・
^{すきやばしこうえん} 数寄屋橋公園

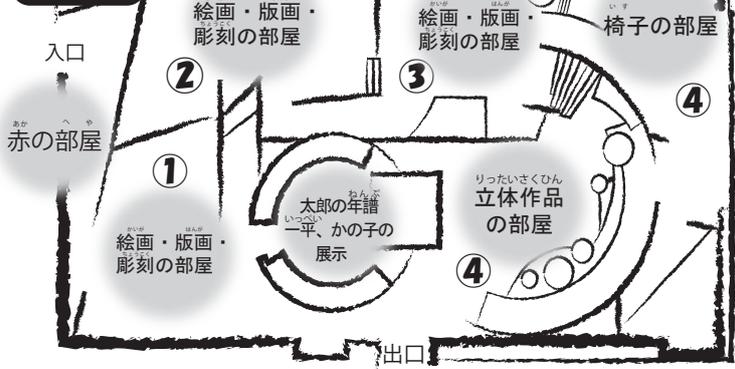
名前

学校

年

組

MAP



③

太郎さんは《太陽の塔》をつくるときにこんなことをいっていました。

私は「ベラボーなもの」をつくと宣言した。

日本人は勤勉で純粋だが、底ぬけの豊かさに欠けていると思うからだ。

《太陽の塔》はあなたにどんなメッセージをおくっているかな?!

① 太郎さんは《重工業》《空間》ってタイトルをつけてるけど、あなただったらどんなタイトルをつける?? いろんな作品に自分オリジナルのタイトルをつけてみよう!



④ 太郎さんの立体作品は、とても不思議な形をしていますね。太郎さんになりきって、「○○○○の椅子」を考えて、描いてみよう!

② 絵の中央にいるこの人の心の声を聞いてみよう。この絵から感じたものをかき留めよう。



あす しんわ
明日の神話
1936年